全校のみなさん、おはようございます。今日は、７年前の東日本大震災についてお話します。

２０１１年３月１１日のことでした。みなさんは、どのぐらいおぼえているでしょうか。吉子川小の中で一番誕生日が早い６年〇〇〇〇さんは、幼稚園年長さんでしたから、大きな地震があって大変だったことは覚えているかもしれません。吉子川小の中で、一番誕生日が遅い１年□□□□さんは、まだうまれていませんでしたから、全然記憶にないことでしょう。

私は、当時、５年生の担任でした。５年生１００人で、学年フロアで卒業式の練習をしていた最中、突然、大きな地震が起こりました。その瞬間のことで私が覚えているのは、ガンガンガンという大きな音がなりひびいたこと、壁にねじで固定されている蓄熱暖房機が、その壁ごとはがれて倒れ、煙であたりが白くなってしまったこと、教室の棚から次々と物が落ちてきたこと、天井からつるされている表示や時計がブランコのように揺れたこと、大きな悲鳴があがり続けたこと・・・などです。激しい揺れがとても長い時間続き、私は、もしかしたら日本が沈没してしまうんじゃないか、と考えていたことを憶えています。

その後、放送で、校庭への避難指示がありました。この時の私は、人生の中で一番勇気をだした瞬間だったと思います。

「これから避難します。先生のあとに続きなさい。泣いている場合じゃないよ。フロアにみんなの椅子がたくさんあるから、気を付けて歩いて。Ｂ先生は一番後ろをお願いします！Ｃ先生は足をけがしているＭ君について！」

と大声で指示して、泣き叫ぶ５年生を一喝し、あらゆる場所で閉まってしまった防火扉をいくつもくぐり抜けながら、３階から校庭へと誘導しました。結果的に、中央階段の混雑とすべて倒れた靴箱の山と割れたガラス破片を避けて、全員無事に避難させることができました。

今、こうやって話していても、緊張で胸がどきどきする思い出です。

東日本大震災を経験した中で、私にとってとても印象に残っていることが、３つあります。

１つ目は５年生のＡ君のことです。校庭に避難したあと、私たちはとても不安な気持ちでした。電話はまるでつながりません。どこにも連絡の取りようがありません。でも、おうちの人がきっと学校に子どもを心配して迎えに来てくれる、そう信じて、ひたすら寒い中校庭で待ち続けました。やがて、おうちの人が迎えに来てくれて、一人、二人・・・と抱き合って帰っていきました。２時間たって、ほとんどの子が帰っていきましたが、まだ何人かは残っています。そのうち、女の子たちが泣き始めてしまいました。おうちの人が来てくれなかったらどうなるのだろう、お母さんは無事なのかな、そんな不安でいっぱいだったのでしょう。そんなとき、突然Ａ君が、「ほら、こっち見ろよ。」と言って、漫才を始めたのです。泣いている女の子をどうにかしたかったのだと思います。いくつもいくつもネタをやってくれました。場が明るくなりました。自分だって不安でたまらないはずなのに、そんな様子は少しも見せずに人を励ましたＡ君は、すごい。私は今でもそう思っています。

２つ目は、学校の近所をボランティアで回ったときのことです。９０歳を過ぎたおばあちゃんが、「２階のタンスが倒れちゃってねえ。家族も近くにいないものだから。」というので、「お手伝

いします。」と申し出たところ、断られました。
「いやあ、自分の手や足が動くうちは、自分のことは自分でやるから大丈夫。」
　この言葉は、このあともずっと私の心の中に残ることになりました。

　３つ目は、「子どものがんばり」です。４月に学校が再開しましたが、給食は、１ヶ月ぐらいは完全ストップでした。その後、ごはんだけパックに入って支給されるようになりました。そのご飯は東京から毎日運ばれてきました。しばらくすると、それにふりかけが１こつき、そのうちにたくわんが２きれつき、そのうちにチーズ１こがつくようになりました。そんな給食は３ヶ月ぐらい続きましたが、子どもたちはだれも文句を言いませんでした。
　放課後には、ぺこぺこのおなかを抱えながらも、毎日陸上や合唱など、部活動の練習を続けていました。人間って、おちゃわん１杯分ぐらいのごはんしか食べなくても、エネルギーが切れたりしないんだ、ってちょっとびっくりです。
　その後に起きた、原発事故の影響で、春の遠足は中止。夏の水泳学習も、秋の持久走記録会も中止。運動会は、時間制限ありの４時間だけ行いました。秋の西白河陸上競技会では、競技するときだけトラックに出て、あとの時間は体育館で待ちました。応援する人のいない、応援の声も響かない、寂しい陸上大会でした。私は６年生担任でしたが、子どもたちが小学校最後の大事な行事のほとんどを体験できなかったことが、悲しくて、残念でたまりませんでした。でも、子どもたちはだれも一言も文句を言わない。えらかったです。

　３つ思い出をお話ししました。震災について語り継ぎ、防災について、みんなの意識を高めることはとても大切なことです。地震や津波で約２万人の人が命を落としてしまったことを忘れないように心に刻み付けることも大切なことです。
　でも、７年たって私の記憶に今も鮮やかに残っているのは、自分がいる場所で、自分にできる精一杯のことをやっていた人たちの姿です。悲しみや困難の中でくじけずに健気にけんめいに生きていた人たちの姿です。
　突然の困難が襲いかかっても、励まし合い、力を合わせ、明るく前向きにがんばった人たちを思い起こすたび、私はいつも勇気づけられています。

　今日は、東日本大震災はどんなことが起きたのか、そして人はどのようにそれを乗り越えてきたのか、私が体験したことをお話しました。みなさんの、これからの生き方を少しでも見つめなおすきっかけになったら、うれしいです。

　お話を終わります。